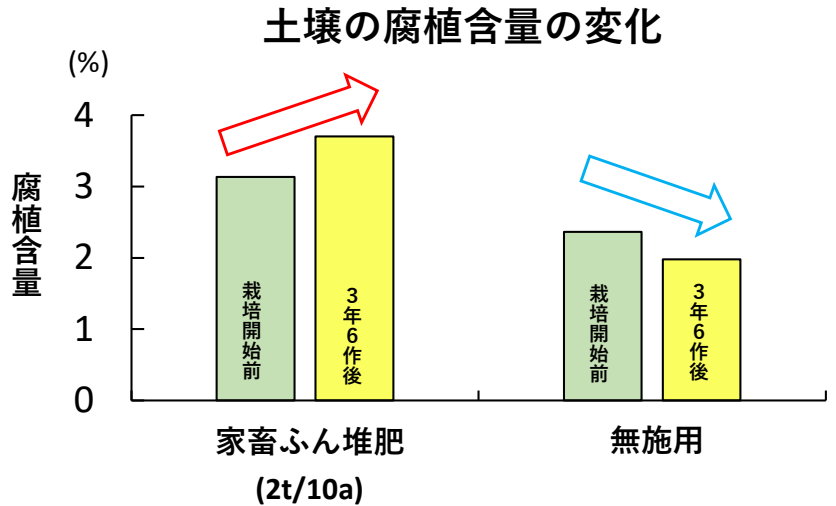


転作田で地力を維持しながら飼料用トウモロコシの二期作栽培を可能にする肥培管理方法



開発のねらい

転作田での飼料用トウモロコシの二期作栽培は、水稻・飼料作複合経営において水稻作との作業分散が可能であり、所得向上に有効です。しかし、飼料用トウモロコシは水稻作に比べて、土壌からの養分収奪量が多いため、連作すると地力が低下します。そこで、地力を維持しながら、安定生産が可能な堆肥施用量と施肥方法を明らかにしました。

新技術の概要

- 飼料用トウモロコシを二期作栽培する場合に、地力維持のために必要な家畜ふん堆肥量は10a当たり約2tです。なお、過剰な施用は、土壌養分バランスや飼料の品質に悪影響を及ぼす場合があります。
- 堆肥施用により、リン酸とカリウムが施用されるので、窒素単肥での栽培が可能となり、肥料費を4割削減できます。また、飼料中のカリウム過剰を抑えることもできます。

活用場面

本技術を活用することで、地力を維持しながら、転作田での飼料用トウモロコシの安定生産が可能となり、大規模水田作経営体等での作業分散による規模拡大に貢献できます。